

目的：いわき市内においてヤングケアラーを早期に発見し、早期に適切な支援へ繋げる。
 方法：児童本人が学校配付のタブレット端末からWeb回答（記名式）
 調査期間：令和7年9月1日(月)～9月12日(金)（児童の在校時間に実施）
 調査対象：いわき市内の小学校5年生・6年生

表1 回答率

学 年	在籍者	回答数	回答率
5年生	2,630	2,277	86.6%
6年生	2,651	2,189	82.6%
空白・他	・	20	・
合計	5,281	4,486	84.9%

表2 「お世話」している人がいると回答したものの割合

学 年	対象者	回答数	回答率
5年生	2,277	366	16.1%
6年生	2,189	233	10.6%
合計	4,466	599	13.4%

表3 「自分はヤングケアラーである」と回答したものの割合

学 年	対象者	回答数	回答率
5年生	366	101	27.6%
6年生	233	66	28.3%
合計	599	167	27.9%

（結果の概要と今後に向けて）

- ・ 全体の回答率（表1）は約85%と高い割合になっており、ヤングケアラーの早期発見と今後の支援へ繋ぐという本来の目的を達成するための現状を、十分に把握できたと考えられる。
- ・ 「お世話」している人がいると回答した割合（表2、図2）は13.4%であり、国調査（R2・R3：5.7%）、県調査（R5：8.0%）と比較して、高い割合となっている。
- ・ お世話の対象者（図3）は、「きょうだい」が60.6%と最も多く、県調査（60.2% ※県調査では「弟・妹」）とほぼ同数であった。
- ・ お世話の内容（図4）は「見守り」が46.7%と一番高い割合であり、次いで「家事」「着替え・トイレ補助」「相談相手」の順に高かった。内容として多種に及んでいると言える。
- ・ お世話の頻度（図5）は、国調査、県調査と同様に「（ほぼ）毎日」が47.1%と最も高く、割合も、県調査（46.2%）に近い数字であった。
- ・ お世話をしている時間（図6）は、平日は「0時間以上2時間未満」が41.2%と最も高い割合であった。次に高かったのは「2時間以上4時間未満」という回答で24.0%であった。休日の方が全般的に平日よりお世話の時間が長くなっていますが、特に「12時間以上24時間未満」の時間帯では、休日は14.5%と平日の4.5%の3倍以上になっている。
- ・ 学校やまわりの大人にしてほしいこと（図7）は、46.4%のこどもが「特になし」と回答している一方で、22.7%のこどもが「自分のことを聞いてほしい」、17.2%のこどもが「自由時間がほしい」という思いを抱いている。
- ・ 自分がヤングケアラーにあてはまるか（表3・図8）については、「はい」が27.9%と、国調査（17.0%）、県調査（10.4%）と比べて、高い割合になっている。
- ・ （図1）の結果から「ヤングケアラー」という言葉やその内容についての認知度は半数に及んでいない。リーフレットの配付や、出前講座等の開催、ホームページによる啓発活動など現在の取組を継続して、更に「ヤングケアラー」の認知度の向上に努めていく必要がある。
- ・ ヤングケアラーの自覚があるこどもの中から「健康状態」や「負担感」なども考慮し、「ヤングケアラーの疑いがあるこども」を絞り込み、各小学校へ第二次調査を依頼した。その結果から「ヤングケアラーの疑い」が更に高まったこどもについて、該当学校や関係諸機関等と連携を図りながら、実際的な支援につなげていく予定である。

○ 参考（各種グラフ）

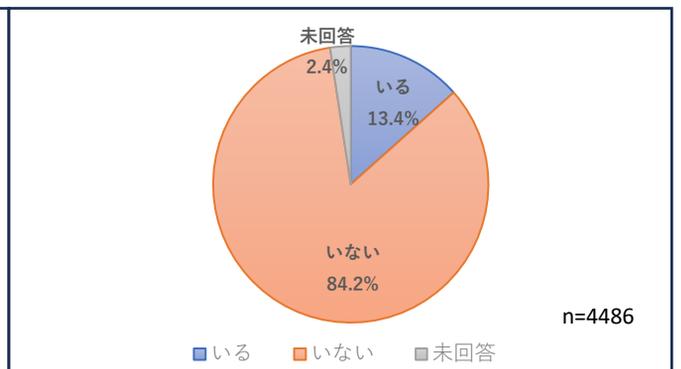
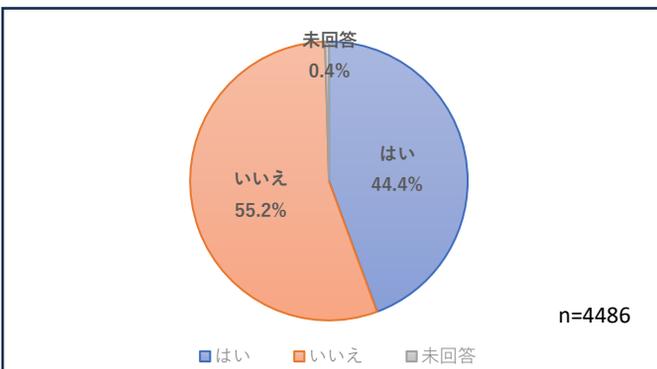


図1 「ヤングケアラー」という言葉を聞いたことがあるものの割合

図2 自分が「お世話」している人がいるものの割合

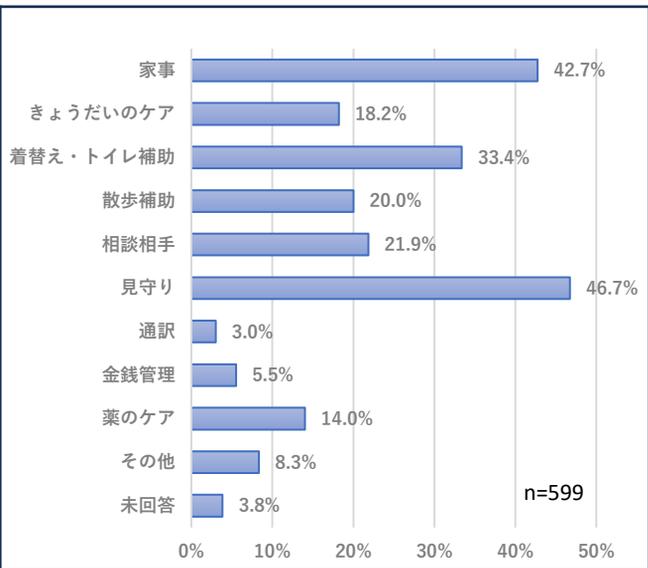
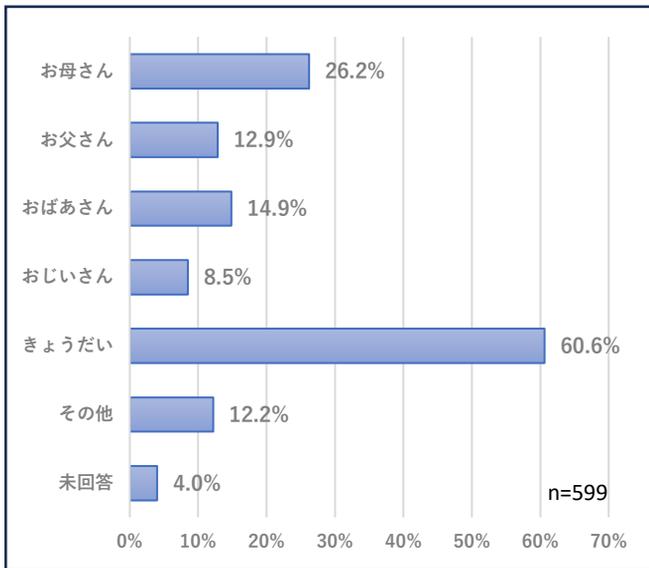


図3 お世話の対象者（複数選択）

図4 お世話の内容（複数選択）

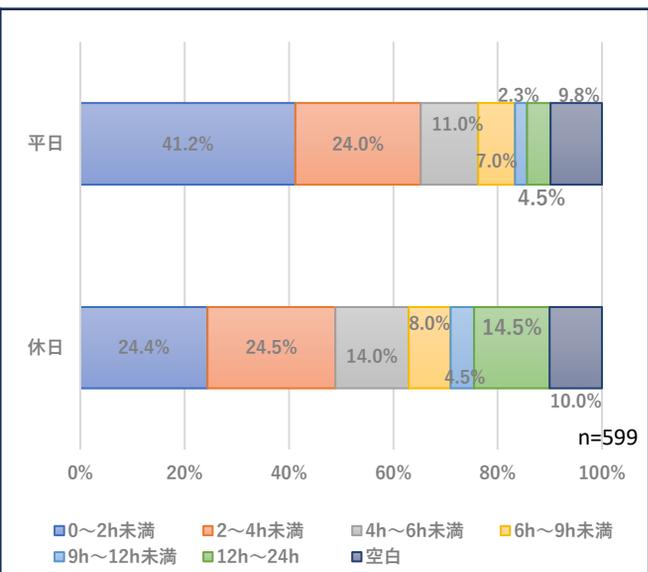
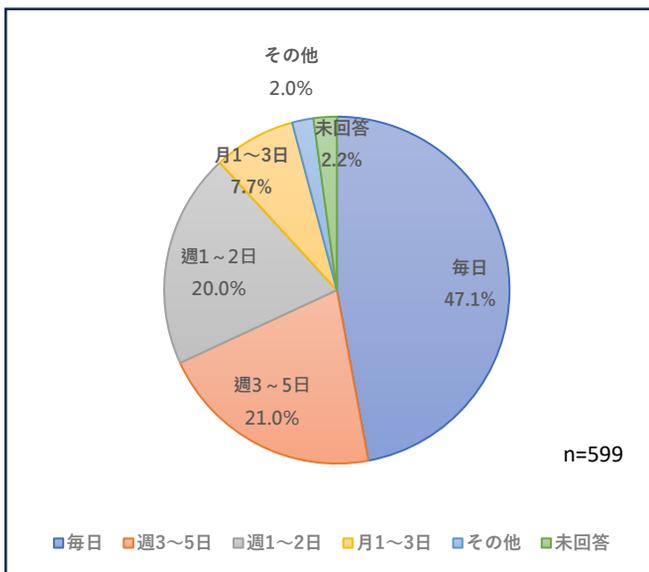


図5 お世話の頻度

図6 平日・休日それぞれ1日あたりのお世話をする時間

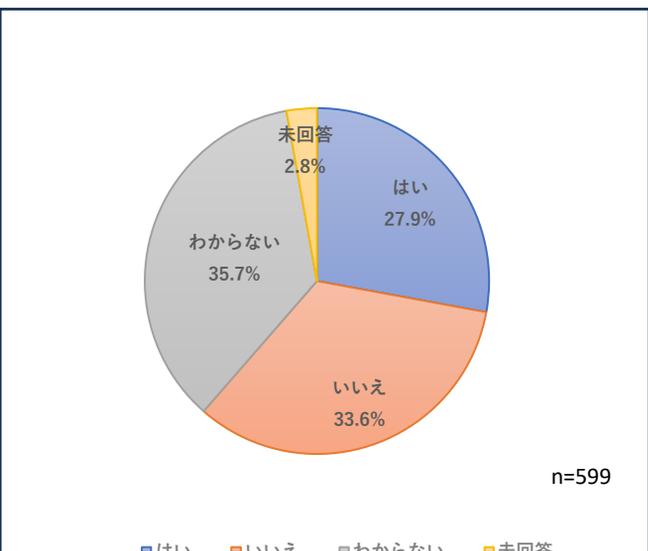
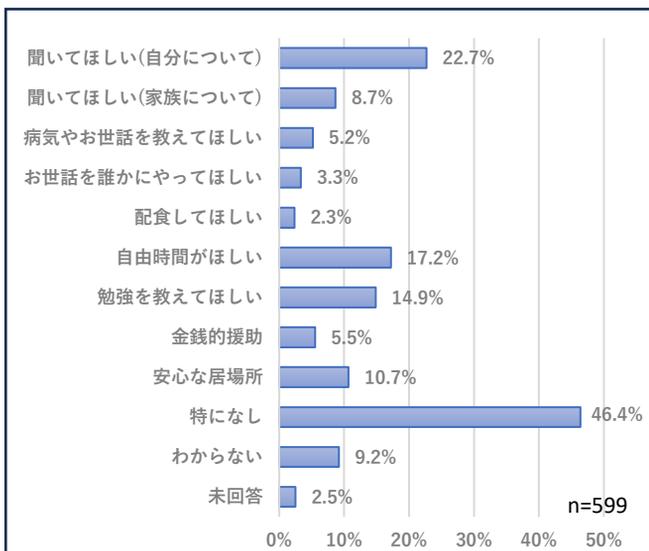


図7 学校やまわりの大人にしてほしいこと（複数選択）

図8 自分がヤングケアラーであると思うものの割合